



サン＝サーンス：ノッテ・ステラータ(星降る夜)

イタリア人若手オペラ歌手3人のグループ「イル・ヴォーロ」が、サン＝サーンス(1835-1921)のチェロ名曲「白鳥」のメロディにイタリア語の歌詞をつけて歌った世界的ヒット曲。「月の映る湖を見てごらん、空の星は僕達のために輝いている。この魔法のような夜に、僕のセレナーデを君のために歌おう」。

ニーノ・ロータ：ロミオとジュリエット

1960年代の映画史に残る名作「ロミオとジュリエット」のテーマ曲。「ゴッドファーザー」「太陽がいっぱい」「道」など多くの名作で映画音楽史に足跡を残したイタリアの作曲家ニーノ・ロータ(1911-1979)のセンチメンタルな魅力が、存分に発揮された一曲だ。

ショパン：別れの曲

ショパン(1810-1849)が書いたもっとも美しいメロディの一つとして名高い。ピアノのための練習曲Op.10の第3番。ショパンの伝記映画「別れの曲」に使われたところからこの名で呼ばれるようになった。

服部良一：蘇州夜曲

日中戦争中の1940年公開の東宝映画「シナの夜」の主題歌。この年の春、蘇州を訪れた服部良一(1907-1993)は、その景観をながめて作曲したという。西条八十による奥ゆかしい歌詞とエキゾチックな曲想で広く知られる一曲。近年、多くの歌手によってカバーされている。

山田耕筈：この道

六騎

松島音頭

待ちぼうけ

山田耕筈(1886-1965)は様々な先駆的業績を残した作曲家だが、日本語の抑揚を生かした歌曲・童謡の作曲はもっとも広く知られている。〈この道〉は、多くの童謡名歌を生み出した北原白秋とのコンビによる一曲。童謡というより、幼き日の郷愁をさそう名歌といえよう。〈六騎(ロッキュ)〉は、親鸞上人の御正忌詣をする人たちの情景が柳川の方言で妖しく歌われる。〈松島音頭〉は民謡を題材にした一曲で、太鼓と三味線を模した伴奏によって、軽快活発に歌われる。〈待ちぼうけ〉は、山田耕筈が北原白秋と満州を旅した時、有名な「ペチカ」とともに作られたという。詞は中国の古典「韓非子」を童謡に書きかえたもので、前奏のフレーズは旅先で聞いた馬車のチャルメラの調べだという。

大中恩：しぐれに寄する抒情

合唱曲の人気曲や「サッチャン」などの童謡で知られる大中恩(1924-)は、日本語の語感の美しさを生かしたメロディに定評がある。佐藤春夫の詩によるこの歌曲もその代表作として名高い。

武満徹：小さな空

死んだ男の残したものは

現代音楽の作曲家として世界的名声を博した武満徹(1930-1996)は、映画やTVやラジオの仕事にも数多く携わった。ここで歌われる2曲は、そうした映画音楽の挿入歌などとして作曲された「ポピュラーソング」。〈小さな空〉は1961年頃、ラジオ・ドラマ「ガン・キング」のために書かれた歌で、作曲家自身による詞は、少年の無垢な心を感じさせる。〈死んだ男の残したものは〉は、ベトナム戦争のさなかの1965年、「ベトナムの平和を願う市民の集会」のために作られた歌である。

菅野よう子：花は咲く

東日本大震災の被災地復興を応援するために制作されたチャリティーソング。作詞の岩井俊二、作曲・編曲の菅野よう子はいずれも宮城県仙台市出身。

バッサーニ：眠っているのか、美しい女よ

G.バッサーニ(1650頃-1716)はボローニャなどで活躍した音楽家。6/8拍子の優雅な旋律に乗せて、瞳を閉じた恋人への熱い思いを歌う。

カッチーニ：麗しのアマリッリ

「イタリア古典歌曲」屈指の名歌として知られる一曲。G.カッチーニ(1545頃-1618)は、フィレンツェのメディチ家に仕えたテノール歌手だった。

スカルラッティ：すみれ

やはりイタリア古典歌曲を代表する佳曲。露に濡れてひっそりと香るすみれと、激しい野心に燃える若者の心の対比を描く。A.スカルラッティ(1660-1725)はナポリ派オペラの巨匠として100曲以上のオペラを残した。

プッチーニ：「トゥーランドット」より “誰も寝てはならぬ”

トゥーランドット姫の謎を見事に解いたダッタン国の王子カラフは、窮地に立たされた姫に、「夜明けまでに自分の名前を突き止められれば、自分の命を与えよう」と提案する。第3幕冒頭、都中に「寝ずに素性を調査せよ」との役人の布告の音が響く中、カラフが歌うのがこの名アリアだ。高鳴る胸を抑えて歌い出され、最後は勝利への確信を高らかに宣言する。

ビゼー：歌劇「カルメン」より “花の歌”

ビゼー(1838-1875)の代表傑作「カルメン」を代表する名アリア。ドン・ホセがカルメンへの熱い思いを歌い上げる。「おまえが投げたこの花を、俺は牢の中でも手放さなかった…俺をとりこにしてしまったんだ、おお!俺のカルメン!おまえを愛している!」

ロッシーニ：踊り

ロッシーニ晩年のサロン音楽集「音楽の夕べ」の中の一曲。ナポリ地方の舞曲タランテラのリズムに乗せて「月のはや海の真中だ。さあ踊ろう、踊るのによい時刻だ。恋心を抱く者は皆来るだろう」と、踊る喜びや人生の快樂を歌う。

ラカジェ：アマポーラ

アマポーラとはスペイン語で「ヒナゲシの花」を意味する。スペイン出身の作曲家ホセ・ラカジェによるヒット曲。

ロジャース：「回転木馬」より

“You'll never walk alone”(君は決して1人じゃない)

1945年に発表されたブロードウェイ・ミュージカル「回転木馬」の中で歌われた“ You'll never walk alone”(君は決して1人じゃない)は様々にカバーされ、1963年に全英ヒットチャート1位となったのをきっかけに、リヴァプールFCのサポーター愛唱歌として親しまれるようになった。今日ではサッカーファンの応援歌として世界中で歌われている。